

## 介護等体験実習の報告

### 介護等体験実習について ～社会福祉施設での5日間を中心に～

文学部国文学科3年 笠 千 恵

社会福祉施設での5日間の介護等体験実習は、介護の本質を学べた貴重な体験となりました。ここでは、この5日間のことを中心に学んだことを述べることにします。

私は、介護等体験実習に行くまで、介護士の方々は利用者のすべての行動に対して介護するものだと思っていました。利用者は、ひとりでは何もできないと思っていたのです。しかし、それは間違いでした。私や、介護士の方々が手を貸さないでも、ひとりで杖を使いトイレに行かれるし、ひとりでお風呂にも入られます。もちろん手を貸さなければ行動できない人もいます。ですが、私が介護等体験実習を行った社会福祉施設では、ほとんどの利用者が、何をするにも積極的にひとりで行動されていました。

また、私がお風呂から上がられた利用者の髪をドライヤーで乾かしているのを見て、介護士の方は「この人は自分でできるから。自分でやらせて。」と注意されました。そして、「自分でできることは、自分でやらせてもらう。手を貸さなければいけない所は、手を貸す。そういうリハビリの場として、デイサービスはある。」と丁寧に説明して下さいました。

またさらに、利用者との会話をしていると「デイサービスに来ることが生きがいだ。」「ここに来るのが楽しい。」と言う利用者の声を何度も聞きました。この声は、ここでのデイサービスが利用者の意志をできるだけ尊重して、ひとりで自由に行

動できるシステムになっていることが要因ではないかと思いました。昼休みに、楽しそうに洗濯物を干している利用者の姿がとても印象に残っています。施設にあるポスターやイベントで使う物もすべて利用者の手作りです。

私は、介護は、全てをやってあげては駄目であり、自分でやれることは、自分でしてもらおうということが大事だということを学びました。このことは、社会福祉施設に限らず教育の場にもあてはまることだと思います。全ての事を他の人がやってしまうと自分からやらなくなってしまいます。デイサービスでは、リハビリという言葉を使っていたのですが、自らが実践するように促すことは、とても大事なことなのです。

## 介護等体験実習を振り返って

食物栄養科学部食物バイオ学科3年 有 銘 盛志郎

私がこの介護等体験実習を終えて振り返り1番に思ったことは、今まで自分が持っていたイメージとまったく現状が違うということでした。最初、社会福祉施設は老人ホーム、特別支援学校は身体の不自由を持った子が通う学校というように、安易な考え、思い込みで体験実習に取り組もうとしていたと思います。

しかし、体験実習が始まると最初のイメージとまったく違う現状に直面し、なぜ、教職課程にこのような介護等体験実習が織り込まれたのかが自分なりにわかった気がしました。

社会福祉施設の5日間の実習では、3日間と2日間に分けられ痴呆や身体の不自由さの度合いの異なる人と接しました。コミュニケーションを中心に、食事の手伝いや入浴介助、オムツの介助など、見学を含めいろいろな体験をさせてもらいました。同じ会話を何度も何度も繰り返したり、食事・入浴・トイレ介助を間近で見えたりすると、つらい気持ちも込み上げてきました。また、何かしてあげたくなくても何もしてあげられないことが何よりもつらかったと思います。

しかし、1日1日の終わりの時間になって、「今日は楽しかったさあ」「また明日いっぱい話そうねえ」と言われると、次はもっと頑張って皆さんの行動、気持ちを理解してみようなど、プラスの意識が芽生えるようになりました。

また、特別支援学校では、社会福祉施設とは違い小学校から高校までの年の子を相手にすることになりました。

自分が担当させてもらった子は、中等部の男の子で弱視の症状を持つ子でした。

「身体が不自由」と聞くと何かしら暗いイメージが浮かびがちですが、そのイメージは覆され、笑ったり、友達とケンカしたり、はしゃいだり、時には自分がリードするはずが逆にリードされてしまったりなど、普通の子供たちと同じような一面が見られました。

社会福祉施設や特別支援学校での体験実習で学んだことは、自分から歩み寄ったコミュニケーションでした。受身では相手の気持ちがわからないし理解しにくく、信頼関係が築きにくいことを感じました。目を背けたくなくなるような現状もありましたが、以前の自分では背けたままだったと思います。

介護等体験実習で普段では見られない現場を見ることで、自分の視野が広がったことはたしかであり、新たな考えや心構えを見つけることができたと思います。

